

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
東放学園映画専門学校		昭和59年4月2日		松島 司		〒160-0023 東京都新宿区西新宿5-25-8 (電話) 03-5333-5080			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人東放学園		昭和54年4月1日		斉藤 晃		〒168-0063 東京都杉並区和泉2-4-1 (電話) 03-3378-7538			
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士		
文化・教養	芸術専門課程		小説創作科			平成6年文部科学省告示第84号	-		
学科の目的	自分で決めた進路を貫く情熱と物語創りを通して自己主張ができるクリエイターを育成することを目的とする。								
認定年月日	令和3年3月25日								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技		
2年	昼間	1700時間	675時間	1,575時間	180時間	0時間	0時間		
生徒総定員	生徒実員		留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
72人	46人		3人	4人	10人	14人			
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 A:100-85 B:84-70 C:69-60 D:59-50 F:49以下不合格 出席状況と試験、レポート提出、平常点等で評価				
長期休み	■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月21日～翌1月6日 ■春季:3月16日～3月31日			卒業・進級条件	①期日までの学費納入 ②必修科目を含む、年間800時間以上、卒業時1700時間以上の修了認定				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 相談内容に応じて、クラス担任、進路担当、専任カウンセラー等が対応。出席不良の学生には、クラス担任が電話やメールで状況を確認し、連絡がつかない場合は、保護者に報告。教職員全員で情報を共有し、組織的に対応している。			課外活動	■課外活動の種類 部・クラブ活動、運動会、スポーツ大会、学園祭、ボランティア活動 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) ㈱アウトソーシング、㈱KMC中部、㈱キット、㈱ワールドインテックファクトリー事業部、㈱東立、㈱晃新製作所、㈱FMC、他(順不同)			主な学修成果(資格・検定等)※3	(令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)				
	■就職指導内容 学科科目として「進路対策講座」(社会人マナー、作家デビューに向けて)と「就職講座」(就職活動のノウハウ)を開講し、ビジネスマナー、就職筆記試験対策も取り入れ、就社希望者には就職セミナー、学内企業説明会を実施し、早期作家デビュー希望者には、各出版社の「新人賞」エントリーに関する情報を提供。卒業学年には年3回の進路アンケートを実施し、進路担当者が個別でも対応している。 ※本学科は卒業後も無料で勉強会を実施しており、デビューサポートも充実している。				資格・検定名 種 受験者数 合格者数				
	■卒業生数: 19 人				情報処理検定(表計算) ③ 1人 1人				
	■就職希望者数: 17 人				日本語ワープロ検定 ③ 3人 3人				
	■就職者数: 15 人				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。				
	■就職率: 88 %				①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの				
	■卒業者に占める就職者の割合: 79 %				②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの				
	■その他 ・進学者数: 1人 ・作家は就社することはないため、就社しながらの執筆活動を望まない学生には、卒業後の執筆にあてる時間の確保も含め生計プランを中心に指導している。 ・就社せずにアルバイトと執筆活動を志望する学生を中心に、卒業生勉強会を学校とキャリアサポートセンターとで連携しつつ支援している。				③その他(民間検定等)				
	(令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)				■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 ラジオ番組geeupsprout(FM Salus 84.1MHz / FMLながわ 88.9)に毎月1編、在校生・卒業生がボイスドラマの台本を提供(2019年4月より継続中) 「廣川愛美とウタカゼ・ゼミ」として、新紀元社「Role&Roll」誌に記事掲載(在学中2018年より現在まで不定期に掲載)、同誌には他にも数名の記事を掲載して頂いている。 棚架ユウ「転生したら剣でした」(現在11巻迄)、「出遅れテイマーのその日暮らし」(現在7巻迄)共にマイクロマガジン社発行、「デッキひとつで異世界探訪」(現在4巻迄)ぶんか社発行、他 佐藤了「キマジメ魔王の清く正しい学園生活」集英社発行、他 立座翔太「勇者のお師匠様にかかれば、異世界の魔王たちも幸せにできます!」KADOKAWA発行、他 水沢汎「魔法犯罪取締庁召喚士取締部 ～その喚び出し、違法です～」新紀元社				

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 4名 ■中退率 10%</p> <p>令和3年4月1日時点において、在学者 42名（令和3年4月1日入学者を含む） 令和4年3月31日時点において、在学者 38名（令和4年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更、経済的問題、健康上の理由等</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担当アドバイザー(担任)が学生の欠席および成績状況を把握し、必要に応じて指導ならびに助言を行い、保護者との情報共有を図っている。また個人面談を通じて学校生活全般に対するケアを行っている。専任カウンセラーによるカウンセリングを実施している。</p>
<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ※有の場合、制度内容を記入 [入学前] 【東放学園特待奨学生制度】将来性ある優れた能力を有する者に学費を免除（全額免除～一部免除） 【東放学園卒業生子女奨学金制度】本学園卒業生の子が入学する場合に入学金の半額を免除（出願時に要申請書） 【東放学園卒業生・在校生 兄弟姉妹奨学金制度】本学園卒業生または在校生の兄弟姉妹が入学する場合に入学金半額免除（出願時に要申請書） [入学後] 【東放学園奨学金制度】経済的な修学困難者に対し、2年次後期授業料を免除する制度 【東放学園特別育英奨学生制度】本学園の教育方針を理解し勉学に励んだ者で年間の成績が特に優秀であり、かつ人物的にも優れている者を選抜し後期授業料相当額を給付する制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p>https://www.tohogakuen.ac.jp/movie/writing/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

高度な実践力や威力の発揮に欠かせない人間性や自立心を育み、環境や流行等の変化が著しい当該業界において順応力を持った人材を輩出するために、①学生が享受すべき知識や技術について、連携企業との日常的なコミュニケーション・意見交換を通じて、教育課程の編成や教育環境の構築に関して、積極的に反映させる事。②就職先ともなり得る連携企業に所属する社員を講師として招聘し、実習・演習授業において実利性・専門性が高いカリキュラムを構成する事。以上を、企業等との組織的な連携の基本方針としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長を委員長とし、以下、教務教育部長の他、学科運営を主たる業務とする学科主任を学内の委員とし、学科が委嘱する業界企業の方と業界関連団体に所属し、実践の環境を熟知し、あるいはそれらを俯瞰し統括する立場の方を学外の委員として構成している。
学外委員からは専門分野に関わる人材の育成に有用な意見や改善点、新たな施策を提示して頂き、当該業界の動向や変化等について、学内委員からは学事や学生の動向等について意見交換を行い、積極的な情報共有を図る。また、カリキュラムのあり方や授業の構成について、同業界において求める人材像や育むべき人間性や実践力について等、これらの具体的要件に関しても意見交換や議論を行い、教育課程決定の基とする場として位置付けている。
当委員会の内容は、学内委員により学科毎に実施されているカリキュラム会議で発議がなされ、学科担当職員との意見交換を経て、重要度の高い項目等から教育課程の編成に取り入れられる。反映された項目は、次回以降の同委員会でフィードバックがなされ、今後の会議運営に役立てる事とする。以上を教育課程の編成に関する意思決定の過程としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年度

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
秋田 孝宏	日本マンガ学会 マンガ文化研究家 明治大学米沢嘉博記念図書館勤務	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	①
金巻 朋子	株式会社チクタク 代表取締役	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
松島 司	東放学園映画専門学校 学校長		
蒲田 直樹	東放学園映画専門学校 教務教育部長		
喜多 晃平	東放学園映画専門学校 小説創作科 学科主任		
青柳 高広	東放学園映画専門学校 学務管理部部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月17日 15:30～17:30(オンラインにて開催)

第2回 令和5年2月中旬 ※新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み、文書による回答等で開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

各委員からの提案内容や委員会での決定内容等に関しては、各学科の担当職員を中心に構成されるカリキュラム会議等において、次年度以降の教育課程の編成や、当該年度の授業内容に具体的に反映させている。

【本学科への意見・改善案等(抜粋)】

[意見]小説だけではなく、文字を扱った職業につかせることが目的という学科の方向性に合わせて、「実践ライター講座」に雑誌記事だけではなく、近年活躍が目立つウェブ系のライターについても取り上げてみては?

[改善策]卒業生の中には、ウェブライター系での仕事を担当しているものもいるため、学生の進路先の一つとして紹介するとともに、学生の反応も見つつ、その要素をふくらませるか検討してみたい。

[意見]漫画原作の授業に関して

[改善策]漫画原作への興味は、学生も十分にあるため、授業としても次年度取り組んでみようと思う。現在ライトノベル作家養成のカラーが強いため、この要素も取り入れてみたい。

[意見]作品のできがどうか、自分で気に入っている以内に関わらず、締切に間に合うように投稿(原稿を仕上げる)という工程も含めて作品を作るということになるので、その重要性を学生に伝えてほしい。

[改善策]学生の身分であっても職業を意識する上で、作品を仕上げる重要性は理解させたい。今後は進捗状況をこまめに確認しつつ、投稿させるまでを一つの工程として指導していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①文章で感動を伝える多くの職業に通じる技術教育を重点項目としている本学科において、小説の執筆、プロデュース、出版等の業務で実績を持つ企業や学生の就業先となり得る連携すべき企業を選択する事。
- ②「現場が必要とする人材」を最も効果的に育む事ができる、現場の一線で活躍している企業や外部講師から助言をいただき、それを積極的に反映させていく事。
- ③実習・演習授業において、授業回毎の具体的な内容や、学生の習熟度を鑑みながらの教育の程度・水準等について、学内の学科担当職員と議論や意見交換を図る等、同企業との連携を図りながら授業を担当していただく事。
- 以上3項目を、企業等との連携に関する基本方針としている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

本学科1年次では、文筆を主とする様々な分野において必要とされる文章力、描写力や創造力を身につけるための基礎的な演習や実習授業を実施している。該当分野の企業と連携し、各分野で業務に従事している実務者に授業を担当いただき、学生の理解度に応じたトレーニングを施しながら、指導内容の習熟度や関連知識の理解度等を勘案しながら学修成果の評価を実施していただいている。

2年次では、実践力を高めることを目的とした作品制作系の総合的な演習や実習授業を実施している。各分野の一戦で活躍している企業と連携し、業務に従事している実務者に授業を担当いただき、学修成果の評価を実施していただいている。

また、連携企業や外部講師を招聘し、学科担当職員全員・就職担当職員との懇談の場である講師会を実施。連携企業や講師との意見交換と情報共有を図り、各担当授業のシラバスや具体的な実習・演習内容を検討したり確認したりしながら、教育課程の充実と教育内容・学校職員の質向上に努めている。

上記会議体のみならず、連携企業や協力いただいている外部講師とは、定期的に当該現場の動向や変化、学生の資質等の情報を交換しながら、細やかな話し合い・コミュニケーションを通して、上記主旨同様の効果を図るための対策を常に施している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
創作総合演習Ⅰ	クリエイターに必要な基礎知識やアイデアの考え方、出版業界の仕組み等を学んでいく。グループワークを中心とし、発想力、プロットのまとめ方の能力を鍛える。	株式会社榎本事務所
創作総合演習Ⅱ	クリエイターに必要な基礎知識やアイデアの考え方、出版業界の仕組み等を学んでいく。Ⅱではより実践的な課題に取り組み、卒業後の進路についても考察する。	株式会社榎本事務所

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校では「東放学園 教員研修規程」として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等と連携した研修を行うことを基本方針としている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「ロジカルシンキング研修」(主催:株式会社インソース)

期間:令和4年8月29日(月) / 対象:映画制作科専任教員

内容:

- 1.ロジカルシンキングとは何か
- 2.ロジカルシンキングの基本①～モレなくダブリなく～
- 3.ロジカルシンキングの基本②～「だから」と「どうして」～
- 4.ロジカルシンキングの基本③～演繹法と帰納法～
- 5.ロジカルシンキングの応用①～仮説思考～
- 6.ロジカルシンキングの応用②～フレームワーク思考～
- 7.総合演習

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「分かりやすい説明の仕方」(主催:株式会社インソース)

期間:令和4年2月20日(月) / 対象:小説創作科専任教員

内容:

- 1.「伝える」ポイントを考える(過去に見聞きした説明を振り返る、など)
- 2.目的・意図を明確にする(伝えたい内容を整理する、相手の立場になって考える)
- 3.話の構造を考える(何が話をわかりにくくしているのか、構造化のパターン、階層化するメリット、など)
- 4.話の展開を考える(わかりやすい説明をするためには、話の展開例)
- 5.実際の話し方をトレーニングする(間の取り方、話すスピード、姿勢態度表情の作り方、など)
- 6.総合演習①(指定された文章を階層的に整理し、最も伝えたい内容に絞って、分かりやすく説明する)
- 7.総合演習②(3つのテーマから1つを選択し、自分で文章を考え、分かりやすく説明する)
(また、グループ内でお互いの説明の仕方について、チェックシートを用いてフィードバックを行う)
- 8.まとめ(本日の研修を踏まえて、明日から意識することを考え、グループ内で共有する)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:校正・校閲力養成講座 (主催:宣伝会議)

期間:令和5年度 11月頃 / 対象:小説創作科専任教員

講師:木下 彰二 氏、倉崎 伸一郎 氏、田仲 典子 氏

内容:

【Web文書の校正・校閲】

- ・Web校正・校閲はなぜ大事なのか / 校正・校閲の流れ / 校正作業の実際
- ・Wordを使った校正・校閲 / 校正・校閲のための道具 / マニュアルの作り方
- ・差別・不快表現小説の書き方・組み立て方⑧「書き出しは簡単。必要なことは、一つだけ。」
⇒物語の発想法、ストーリーの作り方、プロットの組み立て方、人物や風景を描写する方法など、小説の書き方の研修。

【Web文書にまつわる法律】

- ・Webページ、SNSにおける法律の重要性 / 権利に関する法律(著作権、肖像権)
- ・掲載内容に関する法律(薬事法、消費者法) / 企業実例

【編集体制(実践編)】

- ・Webメディアでのリスクマネジメント実例 / 編集者不在のWebでリスクマネジメントをする体制やフロー

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「分かりやすい説明の仕方研修」(主催:株式会社インソース)

期間:令和5年2～3月実施予定 / 対象:東放学園全教職員

内容:学生指導、保護者対応、関連企業団体等とのコミュニケーションを図る上で最も重要とされることでもあり、説明の仕方は、担当授業においても十分活かせるものである。
教職員としてのスキルアップのための研修としている。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- 1) 教育の一層の充実を図り、学校の目的及び社会的使命を達成するため、各校における教育活動等の状況について定期的に関係者評価を行い、随時改善を図ることを目的とする。
- 2) 学園は充実した学校評価制度の構築に努め、各校・各部門はこれを実施する体制を整える。
- 3) 各校・各部門は、情報公開を念頭に掲げ、より高い基準を設定し関係者評価を実行する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	使命、行動指針、教育方針、理念、目的、育成人材像
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム、情報システム
(3) 教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許取得の指導体制、教員・教員組織
(4) 学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、卒業生・社会対応
(6) 教育環境	施設・設備、学外実習、インターンシップ等、防火・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	関係法令・設置基準の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献の取組み、ボランティア活動の取組み
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

【学科共通】

本委員会での結果を活用し、教育活動及び学校運営の質の保証と向上に継続的に努めるための改善措置を随時行っている。委員の意見やアドバイスを尊重し「即対応」「計画的対応」などを検討し、可能な限り改善を行っている。(カリキュラムの改革、機材の購入、教員のスキルアップ等)特に、時代に合わせた社会人向け教育や、卒業生の早期退職者フォローにも活かせる内容を試みている。

[意見]業界関連団体は多いが、もう少し深く関わることができないか。

[改善策]主体的に地域や社会に学校をPRして行くことが必要である。関連団体との関係性は現時点では向こうから要請されたものに答えるだけである。今後はより間接部門のキャリアサポートセンターと協働して主体的に働きかけて行きたい。

[意見]チームで作品づくりに携わる中で、他者と協調しつつ自分の意見を出せるような人材育成を目指してほしい。

[改善策]クリエイター育成と基本的な協調性等の人材・人間力育成は両輪で行う必要がある為、今後は教職員全体で検討して行く。

[意見]理想の教員・職員のラインナップを考えて、少しでもそれを揃えられるような人事をして頂きたい。

[改善策]近年、特に非常勤講師の多くが講師定年を迎えることもあり、過渡期に差し掛かっている現状である。その為今後は各学科で大幅なカリキュラムの見直しを検討している。またこれと同時に企業・団体との繋がりを組織的に強化して行こうと考えている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
月野木 隆行	学校法人東放学園 元理事 学校法人東放学園 東放学園専門学校 元校長 学校法人東放学園 東放学園映画専門学校 元校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	教育・学校運営に関する有識者
浅井 千瑞	株式会社 メディアミックス・ジャパン 制作演出部 部長 プロデューサー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	就職先及び関連業界関係者
加藤 亮一	株式会社 studio K	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	就職先及び関連業界関係者
竹内 一仁	東京都立小岩高等学校 1学年主任 主幹教諭	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校教諭
芦塚 明子	2004年 デジタル映画科 卒業生 株式会社 スクーターフィルムズ 取締役COO プロデューサー	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	卒業生(企業等委員)

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL <https://www.tohogakuen.ac.jp>

公表時期: 令和5年3月2日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

認可された教育機関として、社会への説明責任を果たすとともに、教育の質保証・向上の観点から、学生、保護者、地域住民、関連業界企業等に教育活動や学校運営の状況に関する情報を提供する。また、同窓会組織や東放学園キャリアサポートセンターと連携を図り、卒業生や企業等から積極的に意見を聴取して、業界のニーズを反映した教育環境の整備や教育課程の編成に努める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	基本理念、使命、行動指針、教育方針、学園概要、沿革、お問い合わせ
(2) 各学科等の教育	募集学科、募集定員、出願資格、学科紹介、学びのポイント、おもなカリキュラム、資格取得
(3) 教職員	学園概要(校長名、教員数)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職・デビュー支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	部&クラブ活動紹介、機材・設備
(6) 学生の生活支援	学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費、奨学制度・教育ローン
(8) 学校の財務	情報公開(財務情報)
(9) 学校評価	情報公開(自己評価報告書、学校関係者評価報告書)
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL <https://www.tohogakuen.ac.jp>

授業科目等の概要

(芸術専門課程 小説創作科)				令和3年度											
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1		○	長編制作演習Ⅰ(実践)	多くの演習を通して書きたいモノをどのようにして読者に伝えるかを学ぶ。また、自身の長所を伸ばし弱点を克服する方法を学ぶことを目的とする。	1前	60			○		○				○
2		○	長編制作演習Ⅱ(実践)	多くの演習を通して書きたいモノをどのようにして読者に伝えるかを学ぶ。また、自身の長所を伸ばし弱点を克服する方法を学ぶことを目的とする。	1後	60			○		○				○
3		○	創作演習Ⅰ	書きたいモノをどのようにして伝えるかを毎回の演習で学ぶ。自分に合った物語の創り方を見つけ、長編を執筆することを目的とする。	1前	30		△	○		○				○
4		○	創作演習Ⅱ	書きたいモノをどのようにして伝えるかを毎回の演習で学ぶ。自分に合った物語の創り方を見つけ、長編を執筆することを目的とする。	1後	30		△	○		○				○
5	○		物語創作講義	前期は物語の三幕構成とプロットの作り方、世界設定とキャラクター設定の実践的な創作技法を学ぶ。後期は自分で目標を定め、講師の指導を受けながら物語の完成を目指す。	1通	90		△	○		○				○
6	○		基礎文章作法	小説を書く際に使用する日本語表現について学んでいく。学校で習った国語や普段使う言葉だけでなく「小説に使える日本語」を身に付けることを目的とする。	1通	60		△	○		○			○	
7		○	実践文章作法	正しい文章を書くための理論を学ぶと共に、「自分のイメージを正確に表現できる文章」が書けるよう、具体的シーンを描写する実践演習によって技術を身につける。	1通	60		△	○		○				○
8		○	小説の書き方	本を制作する工程や関わる職種等、書籍作りのいろはを学ぶ。また、物語作りの基礎や読者のニーズを把握し、作品に反映させられるようになることを目指す。	1前	30		△	○		○				○
9	○		校正・校閲演習	自分やクラスメイトの作品を客観的に校正、校閲できるようにするため、出版界の文章ルールを基礎から学ぶ。校正記号を覚えると共に、校正や校閲のルールを理解することを目指す。	1前	30		△		○	○			○	
10		○	プレゼン演習	自分の想いや作品の魅力を伝える方法を学ぶ。自分の作品をより良くアピールするために必要なことや、スムーズに会話をする方法など、エンタメ業界で活躍するための方法を考え実践し検証する。	1前	30		△	○		○				○
11		○	シナリオ基礎	シナリオという独特の形式を学びながら基本的な書き方をマスターし、個々の感性が光るオリジナル作品を書き上げる。この講座ではその準備段階の力を身につける事を狙いとする。	1前	30		△		○	○				○
12		○	投稿制作実習Ⅰ	新人賞やコンペへの投稿を、在学中に経験することを目的とする。授業内で講師の指導の下執筆した作品を投稿した際、投稿本数や結果に応じて評価を行う。	1通	30				○	○			○	

13		○	サマーセミナーⅠ (短期集中)	取材を基に文章を書くことを目的とした宿泊研修。何故その場所でなければならないか等企画を考え、事前に下調べを行う。現地では事前調査に沿って取材をし、取材結果を基に作品を執筆する。	短	60			○	△	○	○	○				
14		○	描写技術Ⅰ	様々なシチュエーションの文章を書くことで、小説に不可欠な描写技術の向上を図る。あわせて「会話と地の文の書き方」「空間の書き方」「描写する視点の移動」等について学んでいく。	1通	60			△	○		○					○
15		○	ゲームシナリオ・ボイスドラマ制作Ⅰ	物語構成の技術を活かしてゲーム・ボイスドラマ等のシナリオを書くための知識を身につける。また、ゲームやアニメの歴史を学びつつ、シナリオライターとして活動するための基本的な知識も学んでいく。	1後	30			△		○	○					○
16		○	作品討論Ⅰ	小説に数多く触れることを目的とするが、読むだけではなくその作品を読んでどう感じたかを文章化していく。また、全員で同じ作品を読み討論をするなどし、創作をする上での発想力を鍛えていく。	1前	30				○			○				○
17	○		創作総合演習Ⅰ	クリエイターに必要な基礎知識やアイデアの考え方、出版業界の仕組み等を学んでいく。グループワークを中心とし、発想力、プロットのまとめ方の能力を鍛える。	1通	60			△	○			○		○	○	○
18		○	ゼミナールⅠ	作家として活躍する講師に、業界の常識や作家としての立ち方等、毎回のテーマを決めて講義をして頂き、自身の創作や作家活動のヒントを得ることを目的とする。	1通	30				○				○			○
19	○		コミュニケーション演習Ⅰ	ホームルームを行った後、創作に必要な「絶対に完成させる気力」「計画を実行できる体力」「アイデアを生み出すための発想」などを養うことを目的とし、毎回の課題に取り組む。	1通	30			○	△			○				○
20	○		物語教養講座	映画史、日本文学史、歌舞伎、アメリカンコミック、ゲーム等、様々な知識を学び、物語を作るために必要な「好奇心」と「想像力」を養うことを目的とする。	1通	60				○				○			○
21		○	現代日本文学の作品を読むⅠ	小説を書くためには「読む力」が必要となる。小説を構成する要素に注目し、同時代の様々なジャンルの小説をテキストにして、小説を分析的に読む力を養う。	1後	30				○				○			○
22		○	創作探求論	この講座では、様々な媒体でのリサーチの行い方や注意点、それぞれの特徴などを学ぶ。その上で、自身が今後の創作に活かせる事柄について調べ、次年度以降の創作に役立てる。	1後	30				○		△		○			○
23		○	物語鑑賞Ⅰ	物語を創る上で参考となる映画やアニメーション作品を鑑賞し、作品のレポートを執筆する。レポートは単なる感想ではなく、作品と向き合い、自身がどう感じたのかを語ることが求められる。	1短	30				○				○			○
24		○	日本文学で学ぶ創作術	文学作品を読むことで創作力を身に付ける。数多くの文学作品に触れ、良い文章の形や台詞と地の文のバランス等を学ぶ。行間を読む力(読解力)を身につけ、作品の魅力や面白さを理解できるようになることを目指す。	1後	30				○				○			○
25	○		進路対策講座Ⅰ	社会人としての基礎を身につけるための講座で、社会の仕組みやビジネスマナーなどを学ぶ。同時に、小説家になるための準備について等、基礎的なことについても学んでいく。	1前	15				○		△		○			○
26		○	就職講座Ⅰ	就職活動を念頭に置き、必要な準備について学ぶ。企業や業界の研究、電話やメールでのアポイントメントの取り方、エントリーシートや履歴書の書き方等を実践的に学ぶ。	1後	15				○		△		○			○
27	○		特別講座Ⅰ	作家や編集者などをゲストに招き、現場の生の声を聴く。業界で活躍する方の話を聞くことで、作家として必要なことや業界の現状を知り、今後の活動に必要な準備について考える端緒とするための講座。	1通	30				○				○			○

28		○	長編制作演習Ⅲ (応用)	多くの演習を通して書きたいモノをどのようにして読者に伝えるかを学び、小説を執筆する。書き上げた作品は文学新人賞の1次選考突破を最低限の目標とし、積極的に新人賞に応募していく。	2 前	60			○		○									
29		○	長編制作演習Ⅳ (応用)	多くの演習を通して書きたいモノをどのようにして読者に伝えるかを学び、小説を執筆する。書き上げた作品は文学新人賞の1次選考突破を最低限の目標とし、積極的に新人賞に応募していく。	2 後	60			○		○									
30		○	創作演習Ⅲ	オリジナリティや商業性についても考えた上で、繰り返しプロットを作っていく。受講中の長編作品執筆を目標とする。	2 前	30			△	○		○								
31		○	創作演習Ⅳ	オリジナリティや商業性についても考えた上で、繰り返しプロットを作っていく。受講中の長編作品執筆を目標とする。	2 後	30			△	○		○								
32		○	実践ライター講座	出版社や編集プロダクション、ゲーム制作会社などへの就職やフリーランスでの業界デビューを目指す。技術の向上を図ると共に、記事やシナリオを執筆するための知識も学んでいく。	2 通	60			○	△		○								
33		○	ゲームシナリオ・ボイスドラマ制作Ⅱ	ゲームやボイスドラマのシナリオライターになるための知識や技術を身につけることを目標とする。実際に作品を制作し、講師のアドバイスで修正・ブラッシュアップを繰り返すことで、技術の向上を図る。	2 通	60			△	○		○								
34	○		フィールドワーク実習	取材について学び、取材を基に文章を書くことを学ぶ。様々な場所に赴き、体験することで視野を広げると共に、実際に見たことや体験したことを、読者に伝わる文章にする訓練を行う。	2 通	75			△	○		○	○	○						
35		○	ライトノベル作家養成講座	毎回のテーマに沿った講義を受け、ディスカッションを行い、課題を作成して添削を受け修正という流れを繰り返す。デビューに必要な発想力や企画力を含めた文章作成能力を鍛える。	2 通	60			△	○		○								
36		○	投稿制作実習Ⅱ	新人賞やコンペへの投稿を在学中に経験すること、在学中にデビューすることを目的とする。授業内で講師の指導の下執筆した作品を投稿した際、登校本数や結果に応じて評価を行う。	2 通	30						○	○							
37		○	投稿制作実習Ⅲ	在学中にデビューすることを目的とする。授業内で講師の指導の下執筆した作品を投稿した際、登校本数や結果に応じて評価を行う。	2 通	30						○	○							
38		○	サマーセミナーⅡ (短期集中)	取材を基に文章を書くことを目的とした宿泊研修。何故その場所でなければならないか等企画を考え、事前に下調べを行う。現地では事前調査に沿って取材をし、取材結果を基に作品を執筆する。	2 短	60			△	○		○	○	○						
39		○	作品討論Ⅱ	小説に数多く触れることを目的とするが、読むだけではなくその作品を読んでどう感じたかを文章化していく。また、全員で同じ作品を読み討論をするなどし、創作をする上での発想力を鍛えていく。	2 後	30					○		○							
40		○	描写技術Ⅱ	現代の作家に必要とされる描写力について学ぶ。「心理描写でキャラクターを立てる」「正確な空間描写」「自在に視点を変えて描写する」など、様々なシュミレーションしながら書くことで、描写技術の向上を図る。	2 通	60			△	○		○								
41	○		創作総合演習Ⅱ	クリエイターに必要な基礎知識やアイデアの考え方、出版業界の仕組み等を学んでいく。グループワークを中心とし、発想力、プロットのまとめ方の能力を鍛える。Ⅱでは社会に出て何をしたいかも同時に考える。	2 通	60			△	○		○		○	○					
42		○	ゼミナールⅡ	作家として活躍する講師に、業界の常識や作家としての立ち方等、毎回のテーマを決めて講義をして頂き、自身の創作や作家活動のヒントを得ることを目的とする。	2 通	30				○		○								

43		○	現代日本文学の作品を読むⅡ	小説を書くためには「読む力」が必要となる。小説を構成する要素に注目し、同時代の様々なジャンルの小説をテキストにして、小説を分析的に読む力を養う。	2通	30		○			○						
44	○		コミュニケーション演習Ⅱ	ホームルームを行った後、毎回の課題に取り組む。課題は実績を積むことを目的とし、一般の文学賞やコンペティション等を選定し、幅広く投稿していく。	2通	30		○	△		○		○				
45		○	幻想文学講義	幻想文学について、さまざまなテーマから解りやすく解説する。また、現代において、幻想文学の記号を自身の創作にどのように活かしていくかなど、その具体的な方法も示していく。	2通	60		○			○						○
46		○	物語鑑賞Ⅱ	物語を創る上で参考となる映画やアニメーション作品を鑑賞し、作品のレポートを執筆する。レポートは単なる感想ではなく、作品と向き合い、自身がどう感じたのかを語ることが求められる。	2短	30		○			○						○
47	○		進路対策講座Ⅱ	就職活動に必要な情報や知識を学ぶと共に、面接やSPI試験対策などの就職準備を整える。また、兼業で作家活動可能な企業や、ライター事務所等の企業紹介も授業内で行い、業界研究を進める。	2前	30		○		△	○						○
48		○	就職講座Ⅱ	就職活動に必要な準備を実践的に行う。企業の人事担当者等を招いた説明会の実施や個人面談を行うことで、進路選択のサポートを行う。また、希望する進路を明確化するために、個人ごとにアドバイスをを行う。	2前	15		○		△	○						○
49		○	特別講座Ⅱ	作家や編集者などをゲストに招き、現場の生の声を聴く。業界で活躍する方の話を聞くことで、作家として必要なことや業界の現状を知り、今後の活動に必要な準備について考える端緒とするための講座。	2通	30		○			○						○
合計					54	科目	2,190単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
【卒業要件】 ①期日までの学費納入 ②必修科目を含む、年間800時間以上、卒業時1700時間以上の修了認定 【履修方法】 初回の授業（ガイダンス）で内容を確認し、期日までに履修科目の登録を行う		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。